

●平成 27 年度推薦入学試験についての講評

1 小論文

(1)方法

「授業妨害など問題行動を繰り返す児童・生徒(いわゆる「問題児」)への対応」に関する社説を示し、「あなたのクラスに問題児がいる場合、あなたはどのように対応しますか、課題文の内容・主張を踏まえて、あなたの意見を書きなさい」として受験生の考えを問うた。

課題文(社説)は、授業妨害などの問題行動を繰り返す児童・生徒を学校から引き離し、一カ所に集めて指導する特別教室の設置をめぐる、荒れる子の対応に頭を悩ませる学校は少なくないが、問題児を分離することが問題の解決ではないだろう、今こそすべての大人が力を出し合うときである、と主張するものである。

「問題児の分離」という施策の是非だけにとらわれることなく、「同級生」の立場で、問題児への対応について、自分の考えを述べることができるかどうかを見るものである。

アドミッション・ポリシーに沿って「社会の問題の探求と解決に主体的に取り組む姿勢を持っている」ことを確認することを目的とした出題である。

(2)結果に関する評価

評価のポイントは、①課題文(社説)の内容・主張を適切に読み取り、それを踏まえて、②受験生自身の考えが述べられているか、の2点である。

したがって、課題文の内容・主張を踏まえていない論文や、受験生自身の考えが述べられていない論文、極端に字数が足りない、またはオーバーしている論文は低い評価となった。

たとえば、課題である「あなたの対応」の部分が不明確である論文や、教師などの立場から架空の対応論を展開している論文、考えに関する根拠が示されていない論文や単に感想を述べただけのものなどである。

それに対し、課題文を踏まえて、自分自身の経験も記述しながら、自分にできる対応をしっかりと主張するなど、主体的に課題に取り組んでいる論文には高い評価が与えられた。

2 グループ面接

(1)方法

事前(受験票送付の際)に、課題に関する「キーワード」を提示し、キーワードについて十分勉強してきたという前提で、自分の意見を理解しやすい形で発表できるか、グループ討議に建設的に参加しようとしているか、対立軸を設定して双方の立場から適切な状況把握ができるか、などの観点で評価した。

今回は本学教育の特徴である「専門と教養のバランスの良い学び」をテーマとし、バランスの良い学びと進路の実現との関係についてグループで検討する課題とした。

事前に送付したキーワードは「リベラル・アーツ」「学士課程教育」「キャリア設計」「宮崎公立大学」である。

(2)結果に関する講評

評価基準は、①表現する力(キーワードの的確な理解を前提に自分の意見を論理的かつ的確に伝える力)、②面接の態度(他人の発言を十分に理解できるよう真摯に聴き、積極的にかつ意欲的に討論に参加する態度)、③適性(議論展開を進展させる発想、対立軸となる考え方を踏まえた多元的検討力など)である。

グループ面接の結果、キーワードについての理解が不十分な受験生が見られた。キーワードを学習してきて、それをその場の議論に応じて適切に表現しなければ、十分に学習したとは言えない。キーワードを十分に学習した上で、議論の流れを意識し、それに合わせて発言することが必要である。

また、討論に積極的に参加しているにも関わらず、必ずしも建設的な意見を述べていない受験生や、あらかじめ準備してきた意見から展開できない受験生もいた。課題や他者の意見を踏まえない発言は評価できない。

これに対して、事前にキーワードについて十分に学習した上で、人の意見を聞きながら、自分の意見をまとめられる受験生や、自分の考えと他者の考えをすりあわせながら意見をまとめることができる受験生は高く評価された。

3 個人面接

(1) 方法

1人約 20 分面接を行った。評価の基準は次の3点であった。

- ① 表現する力
自己推薦書やアピール・ポイントの内容をわかりやすく表現しているか。
自分の考えを面接員の質問に応じて理解しやすい形で表現しているか。
- ② 面接の態度
相手の発言を真摯にきく態度であるか。
対話に参加しようとする姿勢であるか。
- ③ 適性或意欲
入学への真の意欲があるか。
「大学案内」などによってカリキュラムの内容を理解しているか。

(2) 結果に関する講評

上記の3つの基準を踏まえて評価した。その結果、面接員のコメントは下記のようなものであった。

- ① 「表現する力」に関するコメント
高評価のコメントとしては、論理的に説明できる、自分の言葉で表現できる、わかりやすく表現できる、過去の経験をアピールできる、面接の趣旨をよく理解している、自分の良さを認識している、話の組み立てが上手である、であった。
低評価のものとしては、自己 PR が不足している、高校の推薦書と本人の発言に齟齬がある、であった。
- ② 「面接の態度」に関するコメント
高評価のコメントとしては、受け答えが自然である、落ち着いて臨機応変に対応している、ハキハキしている、真摯な態度、誠実な感じ、控え目だが秘めたものを持つ、感受性が豊か、であった。
低評価のものとしては、受け答えが単調である、受け答えにムラがある、元気がない、であった。
- ③ 「適性或意欲」に関するコメント
高評価のコメントとしては、本人の意向と大学の理念が一致している、キャンパスガイドなどに積極的に参加している、将来の展望がしっかりしている、本学のことをよく理解している、であった。
低評価のものとしては、面接への準備が不足している、であった。